東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

いざこざを通してみた中国の都市部と地方部の保育者の保育観

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-05-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 劉,海紅, 倉持,清美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/132658

東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ　**64**: 211－219，2013.

いざこざを通してみた中国の都市部と地方部の保育者の保育観

劉　　海　紅*・倉　持　清　美**

生活科学分野

（2012年９月13日受理）

１．問題と目的

中国では，一人っ子政策により家庭や地域社会の中で同年齢の子ども達と遊ぶ経験が減少している。こうした現状の中，幼児教育は子ども達の社会性を育む役割が大きくなっている。集団保育の中で，仲間との遊びやいざこざなど様々な相互交渉を経験し社会性を育むためには，保育者の役割は大きい。

これまでの私たちの研究では，日本の保育者と比較することで，中国の保育者の保育観やいざこざに対する考え方，保育場面での保育者の関わり方を明らかにしてきた。特にいざこざに関しては，集団保育の中で複数の子どもがいる状況だからこそ仲間との間に生じる現象であり，子どもの社会性の発達に寄与することがよく知られている。私たちの研究によれば，日本と中国の保育者は，いざこざの意義として，協調性が育まれたりコミュニケーション能力が養われることを認めているものの，いざこざへの介入場面のビデオを見せたときに異なった見解を示すことが分かった。日本の保育者の場合は，いざこざ当事者各々の思いを大切にして，それを保育者はくみ取りながら当事者すべてが納得するような解決方法を時間をかけて一緒に考えるスタンスをとっていた。一方中国の保育者の場合は，いざこざでの是非を明確にして，問題解決のためのスキルを教えようとしていた。

中国の幼児教育は，一斉保育が中心であり，いざこざの解決が長引けばそれだけ保育者の手がかかり，保育が中断してしまう可能性がある。集団での活動への影響を最小限にするためには，中国の保育者のように保育者が介入し解決してしまうのが一番手っ取り早い方法ではある。しかし，現在の中国の幼児教育の課題を考えたときに，この方法が適当かどうかは検討する必要があるだろう。おりしも，中国では幼児教育についての関心が高まっている。2010年11月３日中国国務院温家宝が常務会議で，新就学前の幼児教育政策を発表した[1)]。主な内容として，３年以内に１万名の幼稚園の園長と中堅の保育者に対して，国家級の研修を行うとともに，就学前教育への国家投資を増額することを決めた。中国は国土が広く，地域によって経済的な格差が大きいため，保育者と子どもの状況を正確に把握し，自国の未来を見つめた新しい幼児教育のモデルを見いだすことが早急の課題となっている。

中国国内の格差について，大陸の31の地域の幼児教育発展レベルを調査した結果では，中国を４つのグループに分けている。最も発展レベルが高いのは第一グループ北京と上海，ついで第二グループは天津，遼寧省，江苏省，浙江省の４つの地域であり，第三と四グループは残りの地域である。第三，四グループを併せると全国の80.7％を占めている。これは中国の就学前教育の全体のレベルが高くないことを意味する。特に中部（例えば，湖南省，湖北省，四川省など）と西部地域（例えば，山西省，陝西省，吉林省など）の20の地域（全国の55％を占めている）の就学前教育が遅れているという。入学率，子どもと保育者の比率，保育者の学歴などはいずれも上海や北京の方が第三，四グループに属する地域に比べ高くなっている[2)]。中国の幼児教育を見る際に，割合を多く占めている第三，四グループに属する地域を調査する必要が

＊　西藏民族学院教育学院
＊＊　東京学芸大学生活科学

ある。これまで，私たちの研究は第一グループである上海が中心であった[3)4)5)6)7)]。今回は，上海のデータに加えて，第三グループに属する中西部地域にある陝西省の咸陽市を対象とした。

咸陽市（かんようし）は中国中央部，陝西省の省都西安の北西約25kmに位置し，南を黄河の支流・渭河（渭水）に接している。人口約483万人で，総面積1万213平方キロメートルであり，陝西省に位置する。咸陽市は歴史の古い都市で，紀元前11世紀から周，秦，漢，唐など11の古代王朝の首都またはその畿内にあって栄え，特に秦の始皇帝がこの地に中国の歴史上はじめての封建的中央集権国家を建設したことが有名である。現在は，農業，工業ともに中心的な産業であり，この土地から出稼ぎに行く必要はなく，伝統的な地方都市であるといえる。陝西省の調査によると，親が子どもを幼児教育施設に入れる理由として最も重要視しているのは，漢字や算数等の教育である[8)]。実際に，咸陽市を含め，第三，四グループに属する地域では，多数の幼稚園において教科書を使って，小学校のような授業を教えている[9)]。また，幼児教育を学んだ大学卒の保育者の数が少ない。西部地域の地方政府のずさんな管理によって，国が地方の幼児教育への経費が流用され，保育者の福利厚生などの待遇に大きな影響を与えていることが一つの理由だと考えられる[10)]。学歴の高い幼児教育専攻の保育者は大都市へ行くか，転職してしまう人が多いため，高等職業高校，短大の幼児教育専攻の保育者が多い[10)8)]。これは地方保育の質に影響を与えている。こうした実態は第三グループの特徴といえ，就学前教育レベルにおいて咸陽市は中国内陸部を代表できるごく普通の地域と言える。

一方第一グループに所属する上海は，1998年から幼稚園・小学校・中学校の授業と教材に対して「上海市中小学，幼稚園課程教材改革第二期工程試験工作実施方案」（以下「二期課改」と呼ぶ）という教育改革を実施している。幼稚園の核心理念は，「子どもは活動の主体として，遊びの中からいろいろなことを学んでいく。教師は自ら資質を向上させるために，教育観を改め，より良い保育を実践するように，いっそう研鑽を積んでいかなければならない」となっている。そして，二期課改革後に制定された「幼稚園教育指導綱要」（2001年）では，「幼稚園教育は幼児の人格と権利を尊重し，幼児の心身発達の法則と特徴を尊重する。遊びを基本的活動とし，保育と教育を併せて重んじる。個別に異なった指導をすることに重大な注意をはらい，各幼児の豊かな個性的発達を促進しなければならない」と謳われている。上海の幼児教育は転換期にあり，変わりつつあると考えられる。

こうした第一グループと，咸陽のような第三ループの保育者の保育に関する意識を調査することは，今後の中国全土の幼児教育の質を改善するために，また，中国の保育の実態を明らかにするために重要なことと考える。そこで，本研究では，特にいざこざについての保育者の意識を上海と咸陽で比較することとした。

２．方法

本研究では，上海と日本の保育者に既に実施した研究方法を踏襲し，咸陽の保育者にも実施した。研究方法は，質問紙調査とインタビュー調査である。

２．１．質問紙調査

上海：2008年５月から８月にかけて上海市にある４つの公立幼稚園にインターネットで質問紙を送り，各園長が質問紙をインターネットで回収し，送ってもらった結果，合計43部を回収できた。また集団インタビューを実施した56名の保育者からも質問紙を収集し，合計99部を回収した。

咸陽：2012年５月から７月にかけて，咸陽市の４つの公立幼稚園の園長を通して，80部の質問紙を配布してもらった結果70部を回収できた。またインタビューを実施した42名の保育者からも質問紙を収集し，112部を回収した。その中，６部が無効回答であり，合計106部の有効回答となった。

２．２．インタビュー調査期間・対象

調査は，幼稚園の園長の許可を得て，保育時間外に行った。中国咸陽市では，2012年６月13日から26日にかけて２つの公立幼稚園の計42名の保育者を対象に，半構造的なインタビューを実施した。幼稚園の事情により，一つの幼稚園は30名の保育者を対象に集団インタビューを実施した。もう一つの幼稚園では12名の保育者を対象に個別インタビューを実施した。なお，咸陽の集団インタビューは２人で実施し，１人はインタビュー，もう一人は記録をとった。個別インタビューは１人で行った。集団インタビューは個別インタビューに比べて，他人の影響を受けやすい。しかし本研究での咸陽の集団インタビューは，園長の協力により，非常に和やかな雰囲気で行うことができ，異なる意見でも各人が堂々と発言していたような印象を受けた。そのため，本研究では個別インタビューと大きな差はないものとして判断して，分析を進めた。

２．３．インタビューの手順と質問内容，分析方法について

日本の幼稚園で収録した保育場面での様々ないざこざの映像を見せ，いざこざに対する考え方や介入方法について，インタビューした。中国の保育者にも見て分かるように，映像の下に中国語の字幕を付けて編集を行った。手順と質問内容，分析方法については，劉・倉持（2008）に詳細が記されている。本研究では，上海と咸陽の保育者の相違に焦点を当てるため，先行研究で用いたカテゴリーは使用せず，インタビューそのものを事例的に分析することにした。必要に応じて既に分析した日本と上海の相違についても参照する。

３．結果と考察

３．１．質問紙調査から

Table 1 は，いざこざに対する介入方法について，上位 2 項目を選んでもらった結果を示した表である。各々の項目毎に χ^2 検定を行ったところ，咸陽と上海を比べて，咸陽の保育者が選択した割合の方が有意に高かった項目は，「お互いの気持ちを訴え一緒に遊ぶように促す」（$\chi^2(1) = 10.97$ $p < .01$）「玩具をとられた子の悲しい気持ちを伝える」（$\chi^2(1) = 26.60$ $p < .01$）「勝手に玩具を取る子が悪い，その子を叱る」（$\chi^2(1) = 10.07$ $p < .01$）「欲しくなったときにはお友達に「貸して」と言うように教える」（$\chi^2(1) = 15.99$ $p < .01$）など，直接的に介入するような項目であった。逆に，上海の保育者が選択した割合が有意に高かったのは，「トラブルに介入しないで子ども達に自分で解決させる」（$\chi^2(1) = 24.77$ $p < .01$）「なぜ欲しいのかを聞く」（$\chi^2(1) = 11.89$ $p < .01$）だった。上海の保育者の方が，子どもに任せようとする傾向が高い。日本の保育者も，「なぜ欲しいのかを聞く」を選択する割合が高く，子どもなりの理由があることを認めていることが伺える。

咸陽の保育者は，80％以上が「お友達に「貸して」というように教える」を選択している。上海の保育者は，80％以上の共通に選択する割合の高い項目はないが，咸陽の保育者と同様に，「貸して」というように教えることが一番多く60％以上となっている。日本の保育者は選択することが少ない。上海の保育者が咸陽の保育者と比べて少ないのは，教育改革の効果かもしれない。

３．２．インタビュー調査から

３．２．１．保育者の考えるいざこざの意義

保育者が考えるいざこざの意義について，「質問 1：いざこざは子どもの発達に役立ちますか？　どんな発達に役立ちますか？」のような質問を行った。保育者のインタビュー内容は，次の通りである。

Table1　いざこざに対する介入方法

項目	地域別	選択あり	選択なし	合計
＊ トラブルに介入しないで子ども達に自分で解決させる	咸陽	10（9.4%）	96（90.6%）	106（100.0%）
	上海	34（34.3%）	65（65.7%）	99（100.0%）
＊ お互いの子の気持ちを訴え，一緒に遊ぶように促す	咸陽	42（39.6%）	64（60.4%）	106（100.0%）
	上海	24（24.2%）	75（75.8%）	99（100.0%）
＊ 玩具を取られた子の悲しい気持ちを伝える	咸陽	21（19.8%）	85（80.2%）	106（100.0%）
	上海	7（7.1%）	92（92.9%）	99（100.0%）
「返しなさい」と物を取った子に言う	咸陽	4（3.8%）	102（96.2%）	106（100.0%）
	上海	2（２%）	97（98%）	99（100.0%）
＊ 勝手に玩具を取る子が悪い，その子を叱る	咸陽	21（19.8%）	85（80.2%）	106（100.0%）
	上海	8（8.1%）	91（91.9%）	99（100.0%）
子どもを引き離す	咸陽	9（8.5%）	97（91.5%）	106（100.0%）
	上海	16（16.2%）	83（83.8%）	99（100.0%）
＊ なぜ欲しいのかを聞く	咸陽	16（15.1%）	90（84.9%）	106（100.0%）
	上海	43（43.4%）	56（56.6%）	99（100.0%）
＊ 欲しくなった時にはお友達に「貸して」と言うように教える	咸陽	89（84%）	17（16%）	106（100.0%）
	上海	64（64.6%）	35（35.4%）	99（100.0%）

＊有意差がみられた項目

インタビュー１（上海の保育者A）
「有意義な葛藤体験と学習・発達への寄与」

いざこざは子どもの成長に役に立つと思います。その理由の１つは，いざこざを解決するプロセスの中で，言葉が発達するし，物事の是非や良し悪しなどのルールや問題も解決する方法などを学習すること①ができると思うからです。もう１つは，いざこざによって挫折感を味わうことができ，それを乗り越える力を付けること②ができるからです。（中略）良いことや正しいことをしても，時には思ったような良い結果にならなかったり，正しく理解されなかったりする場合があります。そういうときに，自分の気持ちを整理し，感情をコントロールする力③が必要になります。

インタビュー２　（咸陽の保育者A）
「有意義な葛藤体験と学習・発達への寄与」

いざこざは子どもの成長に役に立つと思います。今の時代の子どもにとってこれがとても大切です。家庭では大人に甘やかされ，小皇帝のように，独占的で，大抵のことは自分の思うとおりになれます④。なので，まずいざこざは子どもに挫折感の経験を与えられる⑤。（中略）現在なぜたくさんの大学生が自殺するのか，それは絶対幼児期に挫折の体験が少なかったからだ。また，いざこざを通して問題の解決能力を高めることができると思います⑥。最後に，いざこざは子どもの言語の発達に役に立つ⑦と思います。

インタビュー３　（咸陽の保育者B）
「親への配慮」

いざこざは子どもの成長発達に役に立つと思います。いざこざを経験することで，忍耐力や是非への判断力及び問題の解決する力⑧などが身に付けられる。ただちょっと困ったのは，中国の親の一部は子どもを溺愛しています。幼稚園の中で子ども達のいざこざによって，子どもの気持ちが落ち込んだり，ちょっとぶつかったりすると，親がそのわけを先生に聞きにくるし，時々いざこざ相手の子どもに直接聞く事だってあります⑨。（中略）本来は子ども達のちょっとした仲われやいざこざなどは大人が介入しなくてもいいと思いますが，でも親のことを考えるとつい，発生しないようにしてしまう⑩。

上海と咸陽の保育者ともにいざこざは問題の解決能力を身に付けるのに役立つと考えている。つまり，いざこざは言語能力，是非の判断力や，自律性など，子ども自身の能力の発達に役立つものだと考えられているのだ（インタビュー１下線部①③インタビュー２下線部⑥⑦インタビュー３下線部⑧）。いざこざは個人の資質や自己抑制力の欠如が一因となって起きるという認識である。また咸陽の保育者は，子ども達が「一人っ子」で「甘やかされている」実態に対して，「挫折」の経験が意義あることだと言及している（インタビュー２下線部④⑤）。上海の保育者も，挫折を味わい更にそれを乗り越える力を身につくと考えている（インタビュー１下線部②）。

咸陽の保育者のインタビュー内容で印象的だったのが，親についての言及である（インタビュー３下線部⑨⑩）。集団保育の中でのいざこざの意義について認めてはいるものの，親にそれを伝えることが難しいようだ。幼稚園の中でのいざこざについて，親が文句を言う状況があり，それに対する対応に苦慮しているようだった。

次に，実際にいざこざが発生した時の保育者の具体的な介入方法について，インタビューの分析を進めていく。

３．２．２．いざこざに対する保育者の介入方法

ここでは，「ヘアピン」と名付けたいざこざの映像を見せてから，インタビューを行った。保育者が介入するまでの映像の内容は下記の通りである。

ＡちゃんとＢちゃん２人で異なるヘアピンを頭につけて，一緒にごっこ遊びをしている時に，ＡちゃんがＢちゃんのヘアピンが欲しくなった。そして，何も言わずに勝手にＢちゃんのヘアピンを取ろうとして，引っ張って壊した。そこで２人はいざこざになって，Ｂちゃんは先生にそのことを告げに行った。

介入を始める前に映像を止め，保育者に「もし先生だったら，どう介入しますか」というインタビューを行った。その結果，保育者のインタビューの回答内容は，次の通りである。

インタビュー４　（上海の保育者B）
「気持ちを落ちつかせる・反省させる・言葉を教える」

> まず，2人の子どもの気持ちを落ち着かせて，引っ張った子どもに引っ張った理由を聞きます①。そして，ヘアピンを壊してしまった子どもに「自分のした行為は正しいことですか」と反省させます②。それから，「貸して」と相手に尋ねることを教えます③。

インタビュー５　（咸陽の保育者C）
「気持ちを落ちつかせる・言葉を教える・一緒に遊ばせる」

> まず，話題を変えて，気持ちを落ち着かせてから，引っ張った子どもに理由を聞いて④，「友達の物が欲しくても，奪ったりすることはいけないです，貸してと友達に言うべきです」と教育する⑤。と同時に，引っ張られた子どもに「かわいそうだったね」と気持ちを共感してあげます⑥。それから，子ども達と一緒に同じものを作って，仲直りをさせて，なるべく二人また遊べるようにしてあげます⑦。

インタビュー６　（咸陽の保育者D）
「気持ちを落ち着かせる・解決法を尋ねる・教育する」

> ヘアピンを引っ張った子は意地っ張りなので，まず別の話題に移して，たとえば，女の子の洋服や靴など昨日と違うところを見つけ，褒めたりします。そうすることで，子どもの気持ちを少し落ち着かせてから⑧，またいざこざに戻って，二人に誰が正しいか誰が間違っているのかを聞いて，どうすればいいのか，聞きます⑨。それから，引っ張った子どもに「間違ったことをしたら，相手に謝るべきだ」と教育していく⑩と思います。

上海と咸陽の保育者ともに，手を出す前に言葉を使うように子どもに教えたり，誤った行動を取った場合にはその是非をはっきりと伝えて相手に謝ることを教えたりする（インタビュー４下線部②③インタビュー５下線部⑤インタビュー６下線部⑩）。日本と同様に子どもの気持ちに寄り添う姿勢を取った後は（インタビュー４下線部①インタビュー５下線部④⑥インタビュー６下線部⑧），やはり教え込むという介入の仕方を示す傾向にあった。

咸陽の保育者は解決法を子どもに尋ねているものの（インタビュー６下線部⑨）最終的には保育者が教えこんでいる。

基本的には，上海の保育者も咸陽の保育者も介入方法に違いはなかった。子どもの気持ちを落ち着かせて，したことがよいことかどうかを問いただし「貸して」とか，「あやまる」などの具体的方法を教えていく。

ただ，気持ちを落ち着かせる方法として咸陽の保育者は目先や話題を変えるなどの方法を使っていた（インタビュー５下線部④インタビュー６下線部⑧）。年齢が小さく，言葉をうまく話せない幼児には，気持ちを落ち着かせるために目先や話題を変えることはよく行うことだろうが，言葉を充分に話せる子どもに，このような方法を使うことはあまりないのではないだろうか。上海や日本の保育者は，このような方法に言及していなかった。このことに関しては，咸陽の保育者は子どもを幼く扱っている印象がした。

３．２．３．日本の保育者の介入方法について

次に日本の保育者の介入方法を見せて，上海と咸陽の保育者に感想や意見を求めた。日本の保育者の介入方法は以下の通りである。

先生がヘアピンを勝手に引っ張ったＡちゃんに「なぜ引っ張ったの？」と尋ね，Ａちゃんは「Ｂちゃんが付けているヘアピンがいい，それが欲しい，自分はまだ１回も使ったことがないから」と答えた。先生は「欲しかったら，Ｂちゃんに言って，取り替えてもらえばいいじゃない」とＢちゃんに言う。しかし，先生はかなりの時間をかけて介入したが，その間一度も引っ張ったＡちゃんの気持ちに言及することはなかった。周りで見ている子ども達は引っ張ったＡちゃんにあれこれと「これがいいので貸してあげる」と言うようになった。Ｂちゃんが貸してくれる気持ちになった頃には，Ａちゃんは欲しくなくなったのか，手に取ろうとしなかった。お片付けの時間になり，介入が終わった。

このような介入方法について，上海の保育者と咸陽の保育者は，次のようなインタビュー内容だった。

インタビュー７　上海の保育者D
「賛成：教育する・他の子達とのあそびを優先させる」

このシーンを見る限りでは，この子はとてもわがままな子どもだと思います。もし私がその先生なら，まず彼女にその行動は良くないということを伝えます①。それから，皆の前ではなく，人がいないところで彼女と個別に交流をします。彼女の自尊心を傷付けないようにします②。また，他の子どもの遊びを続けさせることを優先的に考えます③。

インタビュー８　（咸陽の保育者E）
「反対：婉曲的・気持ちを落ち着かせる」

先生の介入に賛成ではないです。なぜならば，引っ張った子どもの間違いを直接指摘したら，子どもの自尊心に傷をつけたかもしれません④。だから，相手の子が「あげる」と言った時に欲しくなくなりました。もっと婉曲的にしてもいいと思います⑤。（中略）気持ちを落ち着かせてから⑥，間違いを指摘し，友達に謝らせてから，今後友達の物を欲しくなった時に，「貸して」言うことを教えます⑦。

先行研究で，日本の保育者と上海の保育者を比較したとき日本の保育者は全員，映像の介入の仕方に批判的な意見を示した。その主な理由は，一度も引っ張った子の気持ちに寄り添うことをしなかったから，というものだ[3)]。一方，上海の保育者は肯定的であった。上海の保育者はいざこざ当事者に是非を分からせ，教育していく介入を示しているが（インタビュー７下線部①），「他の子どもとの遊びを続けさせることを優先的に考えます」と他の子どもとの遊びを大切にするように配慮していることが分かった（インタビュー７下線部③）。本来は遊びの中で仲間とのいざこざを経験することで，社会性や様々な力を身につけさせるとことができる。上海の保育者が子どもの遊びの大切さを感じつつも，いざこざにおいて，どのように介入していけば，子ども達の成長に役に立つのか，という具体的なやり方まで思い至っていないのかもしれない。

咸陽の保育者は上海の保育者より映像の介入に反対する人が多かった。咸陽は27人中12人が，上海は29中４人が，反対していた。その理由としては，引っ張った子どもの気持ちを落ち着かせてあげることをせずに，介入を進めたことを挙げていた（インタビュー８下線部④⑤⑥）。また，自尊心への配慮は上海の保育者にもみられた。（インタビュー７下線部②）。子ども達に考える機会を与えるためでなく，自尊心を傷つけないために個別に介入したり，婉曲的に介入することが好まれるようだ。

４．総合考察

以上の分析からは，上海と咸陽の保育者はともにいざこざの意義について，「問題を解決する能力」「言語能力」「是非を判断する力」などの力が身に付く役割があると認識していることがわかった。いざこざの介入についてはインタビューによる相違ははっきりしなかったが，質問紙では相違が見られた。上海の保育者は咸陽の保育者より，解決を子ども達に任せる部分が大きい。上海市では，先述したように1998年から幼稚園・小学校・中学校の授業と教材に対して教育改革を進めている。課程改革以来，保育者の教育への認識は大きく変わりつつある[11)]。改革後，上海の幼稚園では以前の小学校のような一斉的な授業から遊び中心な保育スタイルに変わった。自由に子ども達が遊ぶ中で発生したいざこざを子ども達自身で解決させたり，保育者が介入したりする中で，子どもの成長を感じ，徐々に実践からいざこざの社会性の側面の意義は理解できるようになりつつあるのかもしれない。ただ，やはり充分にいざこざにかける時間はなく，保育者が解決の方法を示しがちである。

咸陽の幼稚園は上海の幼稚園と違って，小学校のような一斉的な授業の形式で保育を展開し，細かい時間割がある。そのため，子どもを自由に遊ばせることが少なく，子ども同士のいざこざも生じにくい。保育者が子ども達のいざこざにじっくり関わる経験がなく，いざこざへの介入を通して子ども達の育ちを支援するという実感が少ないと思われる。咸陽の保育者は，教える内容が具体的であるとき，例えば，漢字や数の概念を教材を用いて教えるときは，自分の行為に意義を見いだしやすいが，それ以外の様々な場面で保育者は子どもの育ちを支援しているということが考えにくいのかもしれない。

中国の現状を考えれば，子どもの知力を高め将来への道を拓かせたいという親の気持ちは理解できる。保育者は親のそうしたニーズに応えていくことも一つの役割としてあると考える。しかし，子ども達の生涯にわたる発達を考えたときに，自分の頭で考え，他者の気持ちを思い巡らす経験は，これからも続く他者とともに生活していく社会では必要不可欠なことだ。特に，一人っ子政策の弊害が様々な形で出現している中国社会では，育てていく必要のある内容だろう。いざ

こざなど子ども同士のやりとりが十分にできる時間をとった効果は，そんなにすぐに出るものではない。しかし，幼児期に経験することの意義を保育者は共有し，親にもその必要性を伝えられるようにできることが，今後中国の保育者に求められる力量の一つだと考える。このことは，上海の保育者，咸陽の保育者のどちらも共通している。ただ，咸陽の保育者は上海の保育者と比べて全体的に学歴が低く，国が幼児教育改革を促しても，それは実際どうすればという具体的な方法を提示しない限り，今の保育スタイルや考え方を変えるには難しい部分がある。保育で生じる実際の場面を共有しながら，具体的な支援のあり方を検討できるような研修が望まれる。

引用文献

1）新消息報，学前教育経費が政府予算に入り，5年以内幼児教師全員研修する，2010年11月4日，国内・総合15版，2010

2）崔方方・洪秀敏，わが国の就学前教育発展区域の不均衡：現状，原因及び提案，教育発展研究，24期，pp20-22，2010

3）劉海紅・倉持清美，いざこざを通して見た中国の保育者の保育観―日本の保育者の保育観との比較から―，乳幼児教育学研究，第17号，pp63-72，2008

4）劉海紅・倉持清美，集団保育の役割について中国の保育者の考え方―日本の保育者との比較から―，日本家政学会誌，12号，pp987-996，2009

5）劉海紅・倉持清美（2010a），日本と中国の保育者の保育観，東京学芸大学紀要，総合教育科学系Ⅱ，第61集，pp51-64，2010

6）劉海紅・倉持清美（2010b）・保育場面における中国の保育者の子どもへのかかわり方，日本家政学会誌，8号，pp453-461，2010

7）劉海紅・倉持清美・金敬華，日本と中国の子どもの育ちに関する意識―日本と中国の親と保育者の比較から―東京学芸大学紀要，総合教育科学系Ⅱ，第62集，pp229-240，2011

8）寧玉梅，陝西省農村部就学前教育発展の機会とその対策，東方企業文化，10期，pp262-263，2012

9）田会玲，中寧県就学前教育発展の現状調査報告，寧夏教育科研，105期，pp11-12，2011

10）巨灿・王方国，西部農村地域就学前教育教員養成の対策と思考，読与書雑誌，第9巻1期，pp221，2011

11）施彩萍，二期課改における教師の教育行為への影響素因と対策，閔行区幼児教師課改成果論文集（中国語），上海市閔行区教師研修院・上海市閔行区教育教学研究所　柯碧華（編），pp102-103，2006

注）本研究は陝西省教育科学“十二五”規划2012年度課題（課題番号：SGH12511）「中日幼児社会性の発達と教師教育行為との関係の文化研究」の成果の一つである.

いざこざを通してみた中国の都市部と地方部の保育者の保育観

Urban and rural Chinese child-care workers' perceptions about peer conflict

通过幼儿同伴纠纷来看中国的大都市和西部地区幼儿教师的教育观

劉　　海　紅*・倉　持　清　美**

Haihong LIU and Kiyomi KURAMOCHI

生活科学分野

Abstract

The big regional gaps are found in early childhood education in China. This study examined the regional gaps between urban (Shanghai) and rural (Xianyang) child-care workers' perception, especially how to think and treat about peer conflicts among preschool children. Child-care workers were interviewed before and after they checked the videotaped peer conflicts among preschoolers and child-care worker's intervention in a Japanese kindergarten. Two results were showed. Firstly, both urban and rural care-workers thought that the peer conflict were important for preschoolers to learn the problem solving skill. Secondly, the intervention way of urban care-workers was different from rural child care-workers. Rural child-care workers took the way of teaching the skill for solving the conflict. The special training as the early childhood education and care conference should be provided for all child-care workers in China to eliminate the regional gaps.

Key words: China, Early childhood education, regional gap, peer conflict

Department of Home Economics, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

摘要：　中国的幼儿教育中存在的地域差异，被认为是一个重要的问题。本研究对上海和咸阳地区的幼儿教师进行了调查，旨在探讨究竟存在什么样的差异。众所周知，同伴纠纷对幼儿的社会性发展来说有着非常重要的作用。本研究就同伴纠纷的意义，以及幼儿教师的介入方法等对幼儿教师进行了问卷和访谈。结果上海和咸阳的幼儿教师都认为同伴纠纷对幼儿的发展有积极的意义，可以提高幼儿解决问题的能力。咸阳的幼儿教师对幼儿的同伴纠纷多数采取直接介入的方法。今后为了消除幼儿教育中存在的地域差异，有必要对幼儿教师进行专家座谈会等，例举具体的幼儿教育活动事例进行研修。

*　TIBET UNIVERSITY FOR NATIONALITIES
**　Tokyo Gakugei University（4−1−1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184−8501, Japan）

關鍵字: 中国，幼儿教育，地域差别，同伴纠纷

要旨: 中国の幼児教育については，地域格差が問題視されている。本研究では，実際にどのような相違があるのかを検討するために，上海と咸陽の保育者を対象に調査を実施した。子どもの社会性の発達にとって重要な場面と言われているいざこざをとりあげ，いざこざの意義，いざこざへの介入方法について，保育者への質問紙とインタビューを実施した。上海の保育者も咸陽の保育者も，いざこざについては積極的な意義を見いだし，子どもに問題解決能力が身につくとしていた。いざこざの介入については，保育者が子どもに解決方法を示すような直接的な介入をとることが，咸陽の保育者の方が多かった。今後は，地域間の格差を解消していくためにも，保育カンファレンスなど，具体的な保育場面を対象とした研修の実施が必要だと考える。

キーワード: 中国，幼児教育，地域格差，いざこざ